

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520352

研究課題名(和文) 18世紀ドイツの印刷メディアとしての児童文学の成立 - 『子どもの友』を例に

研究課題名(英文) The Process of Children's Literature Formed from the Perspective of German Print Media in the 18th Century: "Kinderfreund" as an Example

研究代表者

吉田 耕太郎 (Yoshida, Kotaro)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：40551932

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀のドイツで出版された子ども雑誌『子どもの友』を主な調査対象として、公共圏つまり印刷メディアを媒介として成立した情報空間と、子どもの関係を明らかにするものであった。子どもたちは、読書 - 主に、家庭での読み聞かせ - を通じて、識字能力を獲得し、情報空間の中に入り込んでいった。児童文学というジャンルの確立はこの空間において子どもが一定の場所を占めたことの証左である。当時の医学的言説によれば、子どもは病(悪癖)ととらえられており、読書(教育)はその治療行為であった。子どもたちは治療行為としての読書へと駆り立てられることになった。

研究成果の概要(英文)：This research mainly focuses on children's magazines "Kinderfreund" published in the 18th century Germany. And, it was to clarify the child in the public sphere, that is, the information space established by print media. Children, through reading: mainly reading by adults for them at home, acquired literacy skills and entered the information space. Establishment of the genre of child literature is a proof that children occupied a certain place in this space. According to the medical discourse of the time, the child is regarded as a disease (bad habit) and reading (education) meant that treatment. Children were driven to reading as therapeutic actions.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ文学 18世紀 出版紙 子ども 家族

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、18世紀ドイツの文化史を、印刷メディアという視点から研究してきた。18世紀のドイツは、7年戦争が終結し政治的な安定を迎えることで、印刷物の流通が飛躍的に増大したことが出版統計からも明らかになっている。印刷メディアを介して情報を交換するという、今では当たり前の情報空間の出現は、ドイツの哲学者ユルゲン・ハーバーマスが、印刷物を介した討論の空間を、独逸における公共圏の成立とその可能性という観点から論じたように、この情報空間は、18世紀ドイツ文化の様々な局面に、決定的な影響を及ぼすものであった。というのも、この情報空間によって、政治的そして文化的に割拠していた当時の領邦体制は架橋され、ドイツというひとつの文化圏の構築の礎が得られたからである。

この18世紀は、また別の側面では、教育熱の時代とも呼ばれている。教育(その基礎段階である識字教育)は、18世紀に誕生した情報空間に入り込むためのパスであり、また教科書や読本という形で印刷メディアは、教育の現場にも深く浸透していった。文字をならい本を読むことをひとつの目的とかがえる教育はそれゆえ、18世紀に成立した情報空間があってこそ可能であったものであり、またこの時期に児童文学というジャンルが誕生することは、18世紀の情報空間の中で、子どもという存在がひとつの確固とした地位を獲得したことの歴史的な証左でもある。

このようなことから、フィリップ・アリエスがとなえたような子どもを文化的な形成物とみなす立場も、子どもが情報空間のなかに居場所を獲得するという点から明らかにすることができるのではないかという問題意識から、本研究は、18世紀後半に出版された『子どもの友』(同名のタイトルを冠した書籍は多数確認できる)を中心に、子どもにとっての情報空間の解明、子どもにとっての印刷メディアの意味を明らかにすることを目指すものであった。

2. 研究の目的

18世紀に出版された子ども向けの雑誌『子どもの友』の分析から、子どもを情報空間のなかに居場所をもった存在として跡付けること、具体的には、18世紀ドイツの子どもたちがいかなる読書経験を積み重ね、印刷メディアとかかわり合い、情報空間へと入り込んでいったのかを明らかにするものであった。

さらに具体的に、次の三つの点から本研究の目的を説明することができる。

(1) 18世紀は教育の世紀といわれるが、子ど

もに教育をほどこすという現代的な意味での教育の理論が形作られ、学校という具体的な制度が確立した時代であった。『子どもの友』という子ども向けの雑誌の研究は、この時代の教育とも密接に関連してはいたはずである。本研究は、18世紀教育理論が、教育制度と印刷メディアをどのような関連でとらえていたのかを解明することになる。

- (2) (1)では教育という制度に焦点をあてたものであるが、近代的な学校教育が確立する以前には、子どもの教育は家庭においておこなわれるものであった。『子どもの友』は、家庭で読み聞かせられることを前提とした雑誌である、そのいみで、『子どもの友』の内容や構成から、近代的な教育の成立期の、こどもをとりまく家庭環境を解明することになる。
- (3) これまで議論なしに子どもというタームをつかってきたが、フィリップ・アリエスの子ども研究を嚆矢として、今日では、子どもという存在は、歴史的・文化的につくりだされたものであるとする立場に一定の理解が得られているといえる。本研究もこの立場を引き受けて、子どもを情報空間のなかで形作られた存在とかがえている。従って、雑誌『子どもの友』がこどもたちにどのように読まれたのかをたどることは、どのように子どもたちが情報空間に参加し、その中で子どもという居場所を得るようになったのかを解明することになる。

3. 研究の方法

上記のような本研究の目的を実現するために、本研究は、大きく以下の4つの方法でもっておこなわれた。それぞれは、部分的には同時並行的におこなわれ、相互の研究成果を反映しあうものであった。

- (1) 18世紀ドイツの各地で出版されていた、『子どもの友』という雑誌の全体像を把握するために、まず出版史の調査を実施した。これらの研究を参照しながら、『子どもの友』と題された一連の雑誌の出版情報を整理し、とりわけ1812年以前の、プロテスタント圏で出版され雑誌に着目して、『子どもの友』の記事を分析したうえで分類する。なおここで設定する時代区分1812年は、グリム童話が出版された年である。つまり本研究は、子どもの読みものとして、童話が本格的に登場するまでの時期を扱うことを意味している。
- (2) 子どもの読書をめぐる医学の言説を収集し、医学という視点から、子どもという存在、とりわけ子どもにとっての

読書がどのように位置づけられていたのかを調査する。

- (3) 教育学の分野において、子どもの読書についてどのような議論がなされていたのかの確認作業を実施した。同時代のリアルタイムな言説を追うために、主に、教育向けの雑誌を中心に調査をすすめる。
- (4) 子どもと読書の関係をめぐる家庭の言説を収集する。義務教育という制度の確立以前には、教育が実践されていた第一の場所は、家庭であった。このことを考えるならば、家庭における教育へと関心を向けることが必要不可欠となる。18世紀ドイツにおいては、Hausvaterliteratur または Hausmutterliteratur と呼ばれる、家庭総合百科事典が多数出版されていたことが出版史研究からも確認されており、これらの家庭百科事典をてがかりに、親(大人)たちが、子どもの読書に対してどのように対処していたのかを調査する。

4. 研究成果

『子どもの友』の内容の分析から、この雑誌が子ども向けの雑誌であること、また雑誌自体の構成が、編集者の文を枠構造としてもつもので、『子どもの友』で紹介されているさまざまなテーマは、いってみれば今日の子どもの向けバラエティー番組のような構成になっており、読者である子どもたちは、飽きることなく読書をつづける工夫がなされていたことをあきらかにすることができた。

なかでも本研究において研究の中心にあったのは、18世紀の子どもたちが体験していた読書世界の再検討であったが、そのために、育児書や医学書などの記述から、当時の社会において子どもの読書がどのようなものとして描かれていたのかを確認する作業をおこなった。

子どもが当時の医学的な言説のなかでどのように論じられているのかを調査することは、18世紀子どもがどのように理解されているのかを理解する上で大きな意味をもっていた。医学言説の調査は、出産ならびに育児という関心、子どもの病の関心、というふたつの問題関心を軸におこなってきた。とりわけ子どもの病についての調査からは、子どもという存在それ自体を病、または病というよりも道徳的な悪癖の塊のようなものとして当時位置づける風潮が一般的にひろまっていたことがあきらかになった。このように病んだ子どもは、それゆえ、特別の対処が必要な存在、それも医学的なものではなく、教育的な対処によって治癒される存在として理解されていたことがわかった。

このような子どもの病をめぐる同時代の

位置づけがあきらかになることによって、『子どもの友』ならびに子どもをとりまく大人の世界が、子どもを病(道徳的な悪癖)から回復されること、またはこうした病にならないように防衛することを目的としているということがあきらかとなった。結果として、この病というキーワードを軸に、子どもの教育環境ならびに読書世界を明らかにすることになった。

上記のように、研究全体をみわたしてみると、とりわけ研究方法の(2)としてまとめた、子どもをとりまく医学的言説の調査が、本研究をすすめるにあたり大きな意味を有していたということが出来る。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

吉田耕太郎, 「もうひとつの啓蒙論 -『ドイツの雑誌』紙上の懸賞論文(1784年)の再検討」, 『文学研究科紀要』, 56号, pp.21-34, 2017年(査読無し).

Kotaro Yoshida, Ein anderer Weg der Aufklaerung. Christian Garves kulturtheorie, in: Teruaki Takahashi, Yoshito Takahashi, Tilman Borsche (Hgg.), *Japanisch-deutsche Diskurse zu deutschen Wissenschafts- und Kulturphaenomenen*, Paderborn 2016, pp.235-244 (査読有り).

吉田耕太郎, 「心に向けられたまなざし『経験心理の学』(一七八三~九三年)に残された心の病をめぐる言説の検討」, 『文学研究科紀要』, 56号, pp.1-30 2016年(査読無し).

吉田耕太郎 「育児書を読む家庭—18世紀ドイツの育児書の特徴の検討から」, 『文学研究科紀要』, 55号, pp.61-79, 2015年03月(査読無し).

吉田耕太郎 「化粧室の子どもたち」, 『独文学報』, 28巻, pp.61-83, 2012年(査読有り).

[学会発表](計 8 件)

— Kotaro YOSHIDA, Das Phaenomen der kulturellen Uebersetzung in der Welt der japanischen Jugendzeitschriften der Meiji- und Taisho-Zeit, Vortrag des Institus für Uebersetzen und Dolmetschen der Universität Heidelberg 2015年12月, ハイデルベルク(ドイツ).

— 吉田耕太郎 「田舎の誕生—18世紀ドイツの文化都市の形成とその余波をたど

る」,国際シンポジウム《文化都市形成のダイナミズム—ドレスラウ、ドレスデン、ライプツィヒから考える》, 2014年03月, 京都大学(京都府).

— 吉田耕太郎 「狂気—イタリア旅行のひとつのトボスをめぐって」,大阪大学文学研究科共同研究「グランドツアー」,2013年03月, 北海学園大学(北海道).

— 吉田耕太郎 「子どもの身体をめぐる言説—18世紀ドイツ語圏の場合」,《Inter-Uni Seminar KYUSHU/OSAKA 2012》, 2012年3月, 九州大学(福岡県).

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉田 耕太郎 (YOSHIDA Kotaro)
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：40551932

研究者番号：

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()